

ラウル議長も嘆くキューバ社会の実態

7月に開催されたキューバの国会でのラウル議長の演説を読んで、驚きと、苦い思いと、あるいは、キューバらしい問題におかしさまで感じました。今回の国会は、2月に行われた国会議員選挙後の最初の国会に当たります。内外からも、ラウル議長が何を話すか注目されていました。



しました。

ラウル議長は、今年度上半期の国内総生産(GDP)が、2.3%で目標の3.7%に届かなかったこと、生産手段の社会的所有を堅持しつつ、経済運営に不可欠な道具としての計画を再確認し、同時に私的部門の役割も認めて、市場の存在も否定しないこと、改革の初歩的な成果が見え始めたこと、労働意欲を阻害している二重通貨の解消に本格的に取り組むこと、農業以外の分野で協同組合の設立を推進することなどを手短かに述べたあと、キューバ社会に広く見られる、道徳、公德心の低下を、率直に指摘

ラウル議長は、20年以上に渡る「非常時」において、正直、上品、節度、誠実、感受性といった道徳、公德心が、引き続き低下していることは、重大な問題であると指摘し、2005年11月17日にハバナ大学の講堂でフィデルが言った言葉、「この革命は敵によって破壊されるのではなく、われわれ自身が破壊するのであり、われわれに責任があるのである」を思い出すと、問題が歴史的なものであることを示しました。

そして、共産党と政府で協議して問題とされた191の事例を、社会的な規律の欠如、違法行為、法律違反、刑法に違反する犯罪という四つのカテゴリーに分けられるとして、その中の代表的現象を次のように列挙しました。

社会の一部のものは、国のものを盗むことを通常のことと考えるようになった。不法な、あるいは不適切な場所における建築、空家の無断居住、モノとサービスの違法な取引、職場での勤務時間の無視、家畜の盗難と屠殺、絶滅危機にある魚の捕獲、大量捕獲の漁具の使用、森林資源の乱伐（それにはハバナ市植物園の貴重な木材も含まれる）、品薄製品の買い占めと、それらの高い価格での転売、違法な賭博への参加、公定価格違反、賄賂や物品・便宜の供与の受諾、観光客にまつわり



横流しの建築資材が多い

つく行為、情報安全保障の分野での規則の違反。

また、目立ちたいために街中で大声で叫ぶような態度、わいせつなことばの乱用、下品な話し方が、教育水準や年齢に関係なく、少なからずの市民の行動になっている。

さらに、悪事に対する市民の義務に関する観念が劣化し、何か自然のこのように許されている。道路にゴミを捨てる、街中や公園で生理的欲求を満たす、ビルや都市街区の壁に落書きをしたり（写真右）、汚したりする、適切でない公共の場所でアルコール飲料を飲む、酔っ払い運転をする、近所の権利の侵害に注意しない、人々の休息を損なうような大きなボリュームで音楽をかけっぱなしにする、都市のど真ん中で人々の健康への危険も考えずに豚を飼育する、公園、記念碑、木々、庭園、緑地を粗末に扱い、壊してしまっても気にしない、公衆電話、電線、電話線、下水道や上水道、交通信号、道路のガードレールを壊す。



同様に、国道の料金の支払いをせず、その部門の労働者の中には、料金を着服するものもあり、子供の中には何度も同じ場所で列車や自動車に石を投げつけるものもあり、老人、妊婦、子供連れの母親、障害者への協力といたわりという基本的な基準が無視されている。これらすべては、われわれの目と鼻の先で起きおり、市民の批判や抗議を受けることもない。



壊された公衆電話

同じことが、いろいろな教育の段階でも起きており、制服は、制服と見えないほど変えられ、教師の中には、相応しくない服装で授業を行うものもあり、試験の不正に手を染める教師や家族がいる。

←無許可の衣料品販売店



家庭と学校が、社会に役立つ個人の育成のための神聖な両輪であることは知られているが、こうした行為は、もはや社会の損害に留まらず、家族と学校の資質の亀裂を示すものである。